

研究要旨

終末期にある認知症高齢者の家族の意思決定について文献的に考察した。その結果、終末期にある認知症高齢者の家族の意思決定のプロセスにおいて、家族は認知症高齢者の意思の代弁者としての苦悩を抱え、決断するのが難しいが、専門職を信頼することを基盤に決断する手が見出し、家族としての価値観や経験から、認知症高齢者の意思に沿おうとしていることが明らかとなった。

A. 研究目的

終末期にある認知症高齢者は自らの意思を言語で表明するのが難しくなることが多く、家族や近親者は治療や療養環境、看取りについての判断を求められることが少なくない現状がある。

本取り組みでは、エンドオブライフ（以下、EOL）ケアに精通した看護師として終末期にある認知症高齢者の家族の意思決定について文献的に考察し、療養場所の違いに応じた認知症者のEOLケア充実に向けての調査研究の基礎的資料とする。

B. 研究方法

医学中央雑誌Web版（医中誌Web）にて、キーワード「終末期AND認知症高齢者AND家族AND意思決定」を用い検索し267文献がヒットした。PubMedでは、「End of life」「dementia」「elderly」「family」「decision making」を用いてAND検索を行い444文献がヒットした。

タイトルと抄録を読んで、内容に沿っていないものと解説、事例を除き、フルテキストがオンライン上で入手可能であったものとハンドサーチした文献を加えた25文献を分析対象とした。

質的・帰納的に分析した。対象文献の該当すると思われる部分の記述を抽出し、分析のデータとした。抽出したデータは類似する内容をまとめ、カテゴリー化した。

（倫理面への配慮）

文献を取り扱う際には、著作権を侵害することがないように配慮した。

C. 研究結果

質的分析の結果、終末期にある認知症高齢者

の家族の意思決定には、以下の内容が抽出された。以下、文中でカテゴリーは【 】，サブカテゴリーは〈 〉と表記する。

①家族が意思決定をしなければならない状況

家族は認知症高齢者の【近づいている死を覚悟（する）】していた。これは高齢者の〈胃ろうによって生かされている〉〈死に近づいている〉状況から、家族は〈最期を意識し、不安や後悔（がある）〉を持ち、〈死を覚悟（する）〉し、〈最期への見通しを持（つ）〉ち、〈寿命や老衰を受容（する）〉していた。

そして、家族は〈本人が状況を理解できない〉〈認知症高齢者の意思を推し量れない〉〈認知症高齢者の意思を確認できない苦悩がある〉〈認知症高齢者に代わり、家族が意思決定を行わなければならない現状がある〉という【認知症高齢者の意思を推し量れず、家族が意思決定せざるを得ない】状況であった。

②終末期にある認知症高齢者の家族が意思決定の渦中にある様子

家族は、終末期医療や療養について〈意思決定への不安がある〉〈決めていくことが辛い〉〈自身の相反する思いの中で苦悩する〉〈介護生活に対する不安がある〉といった【認知症高齢者の意思の代弁者としての苦悩がある】。さらに、〈家族間での意思が異なる〉〈これからのことがイメージできない〉〈決められない〉〈情報が不十分である〉〈どのように考えればよいか分からず、すぐに決断できない〉〈認知症高齢者の体の変化の理由が分からない〉といった【決断するのが難しい】。このような困難な状況のなかでも、家族は〈医師を信頼する〉〈看護師を信頼する〉〈信頼関係が大切である〉〈職員の対応から信頼でき

る)という【専門職を信頼する】ことを基盤に、
〈医療者の意見を参考に決断する〉〈説明が後押ししてくれる〉〈施設での看取り介護への肯定感をもっている〉〈自分の気持ちを優先する〉という【決断する手がかりを見出す】し、さらに、
〈認知症高齢者の意思を尊重する〉〈認知症高齢者の意思を押し量ろうとする〉という【認知症高齢者の意思に沿う】おうとしながら、〈家族として大切にしていることがある〉〈自分たちで決めていかななくてはいけない〉〈自然な経過を望む〉〈命をつなぎたい〉〈家族として悔いを残したくない〉〈本人らしさを考える〉〈本人に無理をさせたくない〉〈家族としての後悔がある〉〈折り合いをつける〉〈意思決定の環境を整える〉といった【家族としての価値観や経験(がある)】から、意思決定を行っていた。

③家族の意思決定の結果の様子

家族は〈穏やかな姿や死に満足している〉〈介護への達成感や充足感がある〉〈施設での最期に満足している〉〈決定したことに納得している〉といった【意思決定に満足している】。

一方で、家族は〈死を覚悟する〉〈決定した方針に対し、不確実な感じを抱いている〉といった【意思決定後の不安が続いてい(る)】た。しかし、〈揺らぎを打ち消す〉〈決定後の気持ちを整える〉〈意思決定した支えを見出す〉という【意思決定後の支えを見出し、揺らぎを打ち消す】ことをしていた。

D. 考察

分析結果から、終末期にある認知症高齢者の家族に対し、身体的・心理的・社会的側面での専門職の支援が必要であると考え、そして、そのような支援を行える専門職の育成も必要である。これらのことが、認知症者のEOLケアの充実につながっていくと考える。

E. 結論

終末期にある認知症高齢者の家族の意思決定のプロセスにおいて、家族は認知症高齢者の意思の代弁者としての苦悩を抱え、決断するのが難しいが、専門職を信頼することを基盤に決断する手がかりを見出し、家族としての価値観や経験から、認知症高齢者の意思に沿おうとしている。

F. 研究発表

特になし。

G. 知的財産権の出願・登録状況

特になし。